

パーソナルオーディオ システム

取扱説明書

準備する	
CDを聞く	
ラジオを聞く	
USB機器の曲を聞く	
外部入力機器の曲を聞く	
BLUETOOTH®接続でワイヤレスで聞く	
ウォークマン®や“ポケットビット”に録音する	
その他の設定	
「SongPal」でできること	
使用上のご注意・主な仕様	

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

**警告**

安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故につながることもあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。



安全のための注意事項を守る

以下の注意事項をよくお読みください。

定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、電源プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーの相談窓口にご相談ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、
煙が出たら



- ❶ 電源を切る。
- ❷ 電源プラグをコンセントから抜く。
- ❸ お買い上げ店またはソニーの相談窓口へ修理を依頼する。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

**危険**

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

**警告**

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながるがあります。

**注意**

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災



感電

指のケガに
注意

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示



プラグをコンセントから抜く



下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない



電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーの相談窓口に交換をご依頼ください。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない



上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。

内部に水や異物を入れない
本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやローソクを置かない



火災や感電の危険をさけるために、本機を水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないで下さい。本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火災源を置かないで下さい。

万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

キャビネットを開けたり、分解や改造をしない



火災や感電、けがの原因となることがあります。内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーの相談窓口にご依頼ください。

雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグに触れない



本機やアンテナ線、電源プラグなどに触れると感電の原因となります。

本機を日本国外で使わない



交流100Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。

可燃ガスのエアゾールやスプレーを使用しない



清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、モーターやスイッチの接点、静電気などの火花、高温部品が原因で引火し、爆発や火災が発生するおそれがあります。

ガス管にアンテナ線をつながない



火災や爆発の原因となります。



下記の注意事項を守らないと、けがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない



感電の原因となることがあります。

風通しの悪い所に置かない



布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。

付属の電源コードについて



禁止

付属の電源コードは、本機専用です。他の電気機器では使用できません。

幼児の手の届かない場所に置く



指のケガに注意

ディスクの挿入口などに手をはさまれ、けがの原因となることがあります。お子さまがさわらぬようにご注意ください。

大音量で長時間つづけて聞かない



禁止

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。

はじめからボリュームを上げすぎない



禁止

突然大きな音が出て耳をいためることがあります。ボリュームは徐々に上げましょう。

安定した場所に置く



禁止

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所の強度も十分に確認してください。

電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する



指示

異常が起きた場合にプラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるように、電源プラグは容易に手の届くコンセントにつないでください。通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離されません。

コード類は正しく配置する



禁止

本機に取り付ける電源コードやAVケーブルは、足にひっかけると機器の

落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。十分に注意して接続、配置してください。

長期間使わないときは、電源プラグを抜く



プラグをコンセントから抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。

お手入れの際、電源プラグを抜く



プラグをコンセントから抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

危険

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない



接触禁止

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、数時間たってから症状が現れることもあります。

必ず次の処理をする



指示

• 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。

• 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。



警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く



禁止

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

電池を火の中に入れて、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない、火のそばや直射日光のあたるところなど高温の場所で使用・保管・放置しない



禁止

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない



禁止

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

+とーの向きを正しく入れる



指示

+とーを逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す



指示

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。

使用済み電池は家庭ごみとして棄てない



指示

ご使用済みの電池は家庭ごみとして棄てないで、リサイクルボックスに入れてください。

ワイヤレス機能ご使用上 のご注意



警告

心臓ペースメーカーの装着部位から22cm 以上離して使用する



指示

電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

病院などの医療機関内、医療用電気機器の近くではワイヤレス機能を使用しない



禁止

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

航空機の離着陸時には、機内でワイヤレス機能を使用しない



禁止

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。
ワイヤレス機能の航空機

内でのご利用については、ご利用の航空会社にご使用条件などをご確認ください。

本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、ワイヤレス機能の使用を中止する



指示

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

録音についてのご注意

- 大切な録音の場合は、必ず事前にためし録りをし、正常に録音されていることを確認してください。
- 本機を使用中、万一不具合により録音されなかった場合の録音内容の補償については、ご容赦ください。
- あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さな音でも周囲にはよく通るものです。

窓を閉めるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

正常な使用状態で本製品に故障が生じた場合、当社は本製品の保証書に定められた条件にしたがって修理を致します。ただし、本製品の故障、誤動作または不具合により、録音、再生などにおいて利用の機会を逸したために発生した損害等の付随的損害の補償については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

CD-DAディスク再生時のご注意

本製品は、コンパクトディスク(CD)規格に準拠した音楽ディスクの再生を前提として、設計されています。最近、いくつかのレコード会社より著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽ディスクが販売されていますが、これらの中にはCD規格に準拠していないものもあり、本製品で再生・録音できない場合があります。

DualDiscについてのご注意

DualDiscとはDVD規格に準拠した面と、音楽専用面とを組み合わせた新しい両面ディスクです。なお、この音楽専用面はコンパクトディスク(CD)規格には準拠していないため、本製品での再生は保証いたしません。

商標について

- AndroidはGoogle LLCの商標です。
- Windows、Windowsロゴ、Windows Mediaは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標あるいは登録商標です。
- 本機はMicrosoft Corporationの知的所有権により保護されています。Microsoft またはその認可された子会社の許可なしにこの製品に関わる技術を使用、販売することは禁止されています。
- Apple、Apple logo、iPad、iPad Air、iPhone、iPod、iPod classic、iPod nano、iPod touchおよびiTunesは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。App StoreはApple Inc.のサービスマークです。
- 「iPhone」の商標は、アイホン株式会社からライセンスを受け使用しています。

- 「Made for Apple」バッジは、アクセサリが本バッジに記載されたアップル製品専用に接続するように設計され、アップルが定める性能基準を満たしていることを示します。
アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。
本アクセサリをアップル製品と共に使用すると、ワイヤレス機能に影響を及ぼす可能性があります。
- “ウォークマン”、“WALKMAN”、“WALKMAN”ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。
- 本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。
- Qualcomm aptXはQualcomm Technologies, Inc.および／またはその子会社の製品です。
Qualcommは米国および他の国々で登録されたQualcomm Incorporatedの商標です。
aptXは米国および他の国々で登録されたQualcomm Technologies International, Ltd.の商標です。
- BLUETOOTH®ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、ソニー株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。
- Nマークは米国およびその他の国におけるNFC Forum, Inc.の商標または登録商標です。
- XperiaおよびXperia Tabletは、Sony Mobile Communications ABの商標です。
- その他、本書で登場するシステム名、製品名、サービス名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では®、™マークは明記していません。

目次

 警告 安全のために.....	2
--	---

準備する

各部の名前と働き	10
時計を合わせる	13

CDを聞く

CD-DA/MP3ディスクを再生する.....	14
再生モードを変える	14
好きな順に曲を聞く	15

ラジオを聞く

ラジオ局を受信する	16
ラジオ局を登録する(プリセット)	16

USB機器の曲を聞く

USB機器の曲を再生する	17
--------------------	----

外部入力機器の曲を聞く

外部入力機器の曲を再生する	18
---------------------	----

BLUETOOTH®接続でワイヤレスで聞く

BLUETOOTH機器をペアリングして音楽を聞く.....	19
登録済みの機器の音楽を聞く	20
ワンタッチで接続して音楽を聞く(NFC)	20
高音質コーデック(AAC/aptX)で再生する	21

ウォークマン®や“ポケットビット”に録音する

CDやラジオ、外部入力機器からウォークマン®や“ポケットビット”に録音する	22
CDの曲を録音する	22
ラジオや外部入力機器の曲を録音する	23
ビットレートを変更する	23
録音した曲の保存先について	24
フォルダ名とファイル名について	24
本機で録音した曲を削除する	25

その他の設定

オートスタンバイ機能を設定する	27
BLUETOOTHスタンバイモードを設定する	27
BLUETOOTH信号オン／オフを設定する	27
音質を調整する	28
タイマーを使う	28
スリープタイマーを設定する	28
再生タイマー／録音タイマーを設定する	28
リモコンの電池を交換する	30

「SongPal」でできること

31

使用上のご注意・主な仕様

使用上のご注意	32
対応機器とバージョン	33
ウォークマン®	33
iPhone/iPad/iPod およびiTunes	33
USB機器	34
BLUETOOTH無線技術について	34
BLUETOOTH機器について	35
故障かな？と思ったら	36
メッセージ一覧	40
保証書とアフターサービス	42
主な仕様	42

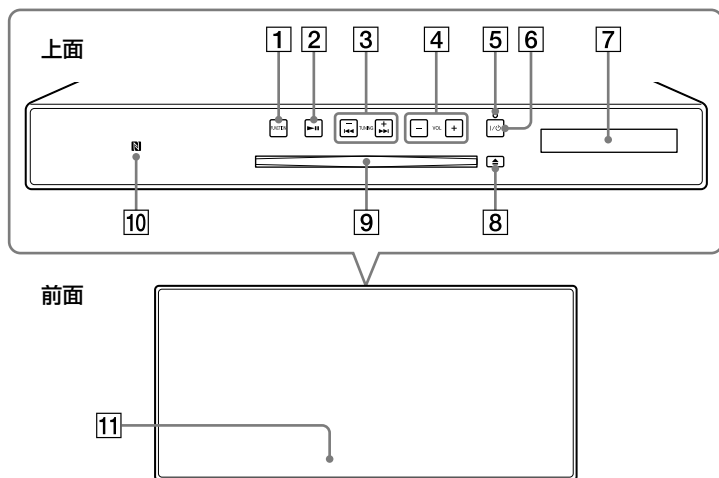
準備する

各部の名前と働き

ご注意

本書では、主にリモコンのボタンを使った操作を説明しています。リモコンと同じ名前の本体のボタンは、同じ働きをします。

本体(前面／上面)



① FUNCTION (ファンクション)ボタン

ボタンを押すたびに、本機のファンクションを以下の順で切り換えます。

CD→USB→BT AUDIO→FM→AM→AUDIO IN

② ▶|| (再生／一時停止)ボタン

曲を再生／一時停止します。

③ ◀◀/▶▶ (早戻し／早送り) / 選局-/+ ボタン

- 曲の頭出しや早戻し、早送りをします。
- 聞きたいラジオ局の周波数を選びます。

④ VOL (音量)+/-ボタン

音量を調節します。

⑤ スタンバイランプ

電源が「入」のとき緑色に、「切」のとき赤色に点灯します。赤色に点滅している場合は異常を検出しています(37ページ)。

BLUETOOTHスタンバイモード時は橙色に点灯します。

⑥ I/O (電源)ボタン

本機の電源を入／切します。

⑦ 表示窓

⑧ ▲ (イジェクト)ボタン

CDを取り出します。

⑨ ディスクスロット

CDを挿入します。

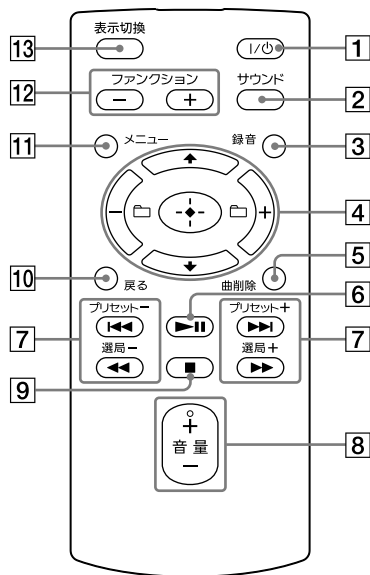
⑩ Nマーク

NFCまたはFeliCa機能を搭載したスマートフォン／タブレットを近づけると、ワンタッチでBLUETOOTHの機器登録や接続／解除ができます(20ページ)。

⑪ リモコン受光部

本体にはIRマークは表示していません。

リモコン



1 I/O (電源)ボタン

本機の電源を入/切します。

2 サウンドボタン

お好みに合わせて本機の音質を調整します(28ページ)。

3 録音ボタン

CDやラジオ、本機に接続した外部入力機器からの曲をUSB機器に録音します(22ページ)。

4 ↑/↓/⊕(決定)ボタン

↑/↓で項目を選び、⊕で確定します。

Ⓕ(フォルダ)+/-ボタン

MP3ディスクやUSB機器のフォルダ(アルバム)を選択します。

5 曲削除ボタン

本機でUSB機器に録音した曲やフォルダを削除します(25ページ)。

6 ■ (再生/一時停止)ボタン

曲を再生/一時停止します。

7 ◀◀/▶▶ (前/次) / プリセット-/+ボタン

- 曲の頭出しをします。
- 登録したラジオ局のプリセット番号を選びます。

◀◀/▶▶ (早戻し/早送り) / 選局-/+ボタン

- 曲の早戻しや早送りをします。
- 聞きたいラジオ局の周波数を選びます。

8 音量+/-ボタン

音量を調節します。

9 ■ (停止)ボタン

再生や録音を停止します。

10 戻るボタン

操作前の状態に戻します。

11 メニューボタン

メニューを表示します。↑/↓を押して、メニュー内の項目を選択します。メニューボタンを2回押すと操作はキャンセルされます。

12 ファンクション-/+ボタン

ボタンを押すたびに、本機のカンクシヨンを以下の順で切り換えます。

CD↔USB↔BT AUDIO↔FM↔AM↔AUDIO IN

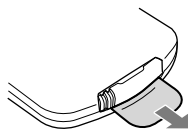
13 表示切換ボタン

電源「入」時に押すと、表示窓に表示される内容を切り換えます。本機で表示されない文字は、アンダースコア()が表示されます。

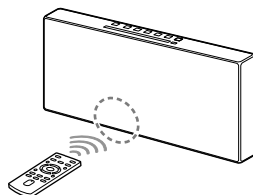
電源「切」時に押すと、時計を表示します。

リモコンを初めてお使いになるときは

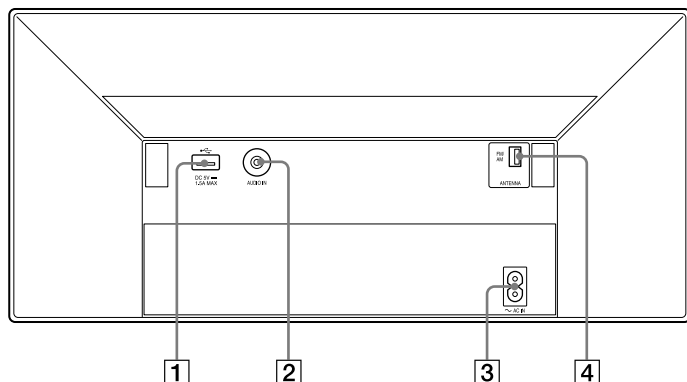
お買い上げ時には、リモコンには電池が内蔵されています。ご使用の前に絶縁フィルムを取り除いてください。リモコンの電池交換のしかたについて詳しくは、「リモコンの電池を交換する」(30ページ)をご覧ください。



本機のリモコン受光部に向けて操作してください。



本体(背面)



① ㊦(USB)端子

USB機器をつなぎます(17ページ)。

ご注意

- 本機にはウォークマン®専用の接続端子はありません。以下の場合にはウォークマン®をUSB端子に接続してください。
 - ー ウォークマン®を充電するとき
 - ー ウォークマン®に録音するとき
 - ー BLUETOOTH接続以外で、ウォークマン®の曲を再生するとき
- iPhone/iPad/iPodは、BLUETOOTH接続時のみ使用できます。iPhone/iPad/iPodをUSB端子につないだ場合は、充電のみ可能です。

② AUDIO IN (外部入力)端子

別売りのオーディオケーブルを使って外部入力機器を接続します。

③ ~ AC IN (AC入力100V電源)端子

電源コード(付属)をコンセントにつなぎます。

④ FM/AM ANTENNA (FM/AMアンテナ) 端子

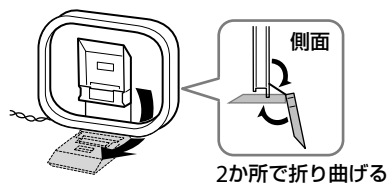
FM/AMアンテナをつなぎます。

ご注意

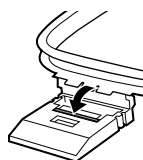
- 受信状態の良い場所や方向を探して窓や壁に固定してください。
- 雑音の原因になるため、AMループアンテナは本体や電源コード、他のAV機器から離してください。
- FMアンテナは、先端をテープなどで固定してください。

AMループアンテナをセットするには

① 台座を図のように倒して折り曲げる。



② フレームの突起部を台座の溝にはめ込む。



「カチッ」とはまるまで、
強い力で押し込む

時計を合わせる

- 1 I/⏻を押して、本機の電源を入れる。
- 2 メニューボタンを押す。
メニューボタンを2回押すと操作はキャンセルされます。
- 3 ↑/↓で「TIMER」を選び、⊕を押す。
「PLAY SET」が表示されるときは、↑/↓で「CLOCK」を選び、⊕を押してください。
- 4 ↑/↓で「時」を合わせ、⊕を押す。
- 5 ↑/↓で「分」を合わせ、⊕を押す。
時計の設定が完了します。

ご注意

停電や電源プラグが抜けて電源供給がなくなると、時計設定は解除されます。

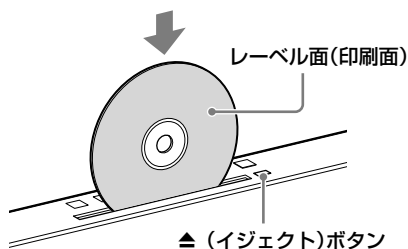
電源が「切」のときに時計を確認するには

表示切換ボタンを繰り返し押して、時計を表示させます。時計は約8秒間表示されます。
ただし、BLUETOOTHスタンバイモードがオンのときは、表示切換ボタンを押しても時計は表示されません。

CDを聞く

CD-DA/MP3ディスクを再生する

- 1 ファンクションボタンを押して、「CD」を選ぶ。
- 2 上面のディスクスロットにCDを挿入する。
CDのレーベル面(印刷面)を手前にしてください。



自動的に再生が始まります。
CDが入った状態で他のファンクションから「CD」に切り換えた場合は、表示窓の「READING」の表示が消えてから、▶||ボタンを押してください。
リモコンや本体のボタンで、早戻し/早送りや、選曲、フォルダ選択(MP3ディスクの場合)などの操作ができます。

CDを取り出すには

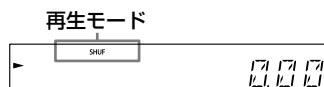
本体の▲ボタンを押します。

ご注意

- 8 cm CDは本機では使用できません。
- 特殊な形状(ハート型、カード型、星型など)のCDをセットしないでください。修復不能な損傷を本機に与えるおそれがあります。
- テープやシールの貼られたCD、接着剤ののりが付着したCDなどは、故障するおそれがあるため、本機では使わないでください。
- CDを取り出すときは、記録面に触れないようご注意ください。

再生モードを変える

再生モードを変えると、曲を繰り返し再生したり、並べ換えて再生したりできます。



- 1 ■を押して再生を停止する。
手順4で「REPEAT」(リピート再生)を選ぶ場合は、再生を停止する必要はありません。
- 2 メニューボタンを押す。
- 3 ↑/↓で「CD MENU」を選び、⊕を押す。
- 4 ↑/↓で「PLAYMODE」または「REPEAT」を選び、⊕を押す。
- 5 ↑/↓で再生モードを選び、⊕を押す。
次の再生モードを選べます。

「PLAYMODE」を選んだとき

再生モード	再生のしかた
NORMAL (ノーマル再生)	通常の曲順で再生します。
FOLDER (フォルダ再生) *	選択したフォルダ内の曲のみを通常の曲順で再生します。 表示窓に「FLDR」が点灯します。
SHUFFLE (シャッフル再生)	曲をランダムに並べ換えて再生します。 表示窓に「SHUF」が点灯します。
FLDR.SHUF (フォルダシャッフル再生) *	選んだフォルダ内の曲のみを、ランダムに並べ換えて再生します。 表示窓に「FLDR SHUF」が点灯します。
PROGRAM (プログラム再生)	お好みの曲順に並べ換えて再生します。 表示窓に「PGM」が点灯します。詳しくは、「好きな順に曲を聞く(プログラム再生)」(15ページ)をご覧ください。

* MP3ディスク再生時のみ。CD-DAディスク再生時に選ぶと、ノーマル再生やシャッフル再生と同じ動作となります。

「REPEAT」を選んだとき

再生モード	再生のしかた
ALL (全曲リピート再生)	CDやフォルダ内の全曲を繰り返し再生します。表示窓に「  」が点灯します。
ONE (1曲リピート再生)	選んだ1曲のみを繰り返し再生します。表示窓に「  1」が点灯します。
OFF (リピート再生オフ)	リピート再生しません。

MP3ディスクについてのご注意

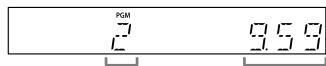
- MP3ディスク作成の際には、不要なフォルダやファイルをMP3ファイルといっしょに記録しないでください。
- MP3ファイルが存在しないフォルダは表示されません。
- 拡張子が「.mp3」のオーディオファイルのみ再生できます。拡張子が「.mp3」でも、MP3形式のオーディオファイルでない場合は再生できません。このようなファイルの再生は、大音量のノイズや本機の故障の原因となりますので、ご注意ください。
- MP3ディスクに対する本機の上限は次のとおりです。
 - 最大フォルダ数：999*（ルートフォルダ含む）
 - 最大ファイル数：999
 - 1つのフォルダ内で認識可能な最大ファイル数：250
 - 認識可能な最大階層（フォルダ）レベル：8
- * MP3ファイルが存在しないフォルダ、空フォルダも含まれます。フォルダ構成によっては本機で認識できるフォルダ数が少なくなる場合があります。
- 本機は、エンコードソフトウェアや書き込み用ソフトウェア、CD-R/RWドライブ、使用メディアなど、MP3ディスクの作成に必要な機器やソフトウェアのすべてを保証するものではありません。作成したMP3ディスクが本機での再生に適さない場合、ノイズが再生される、再生が途切れる、まったく再生されないなど、不具合が発生するおそれがあります。

好きな順に曲を聞く

（プログラム再生）

CDの曲を、お好みの曲順に並べ換えて再生します。

- 1 「再生モードを変える」(14ページ)の手順5で「PROGRAM」を選び、を押す。
- 2 MP3ディスクの場合は、 を押して、プログラムしたい曲が入ったフォルダを選ぶ。
フォルダ内の全曲をプログラムしたい場合は、を押します。
- 3  で、プログラムしたい曲を選び、を押す。



選んだ曲番 プログラムした曲
(ステップ)の総演奏時間

上記の手順を繰り返して、プログラムを行います。

4 を押す。

プログラム再生が始まります。

プログラム再生を中止するには

手順1で「PROGRAM」の代わりに「NORMAL」を選び、を押します。

プログラムした曲(ステップ)を削除するには

停止中に、曲削除ボタンを押します。ボタンを押すたびに、最後にプログラムしたステップから削除されます。ステップをすべて削除すると、「NO STEP」が表示されます。

ちょっと一言

- 25ステップまでプログラムできます。それ以上のステップをプログラムしようすると、「FULL」が表示されます。不要なステップを削除してください。
- プログラム再生後、同じプログラムを再生するには、ボタンを押してください。

ご注意

- CDを取り出したり、電源コードを抜いたりすると、ステップはすべて削除されます。

ラジオを聞く

ラジオ局を受信する

1 ファンクションボタンを押して、「FM」(FM放送)、または、「AM」(AM放送)を選ぶ。

2 選局+/-ボタンを押したままにし、表示窓の周波数表示の数字が動き始めたら指を離す。

ラジオ局を受信すると自動的に止まります(オートチューニング)。

FMステレオ放送を受信すると、表示窓に「ST」が点灯します。

手動で選局するには (マニュアルチューニング)

選局+/-ボタンを繰り返し押して、聞きたいラジオ局の周波数に合わせます。

ちょっと一言

FMステレオ放送の受信中に雑音が多いときは、メニューボタンを押して、「TUNE:MENU」、「FM MODE」、「MONO」の順に選び、モノラル受信に切り換えてください。雑音を低減できます。

ラジオ局を登録する (プリセット)

お好みのラジオ局を登録しておくことができます。

1 受信中にメニューボタンを押す。

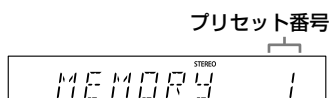
AM放送を登録する場合は、手順3に進んでください。

2 ↑/↓で「TUNE:MENU」を選び、⊕を押す。

3 ↑/↓で「MEMORY」を選び、⊕を押す。

4 ↑/↓で「OK」を選び、⊕を押す。

5 ↑/↓でプリセット番号を選び、⊕を押す。



表示窓に「COMPLETE」が表示され、選んだ番号にラジオ局が登録されます。
上記の手順を繰り返して、他の放送局を登録してください。

6 I/Oを押して本機の電源を切り、もう一度押して、電源を入れる。

ちょっと一言

- FM放送は20局まで、AM放送は10局まで登録することができます。
- 手順5で登録済みの番号を選んだときは、受信中のラジオ局の登録に入れ換わります。

登録したラジオ局を聞くには

プリセット+/-ボタンを押して、聞きたいラジオ局のプリセット番号を選びます。

USB機器の曲を聞く

USB機器の曲を再生する

ウォークマン®や“ポケットビット”などのUSB機器を本機につないで、USB機器に保存されている曲を本機で聞くことができます。対応するUSB機器について詳しくは、「対応機器とバージョン」(33ページ)をご覧ください。

1 ファンクションボタンを押して、「USB」を選ぶ。

2 本機背面の(USB)端子にUSB機器をつなぐ。

USB機器を直接接続するか、USB機器に付属のケーブルで接続してください。表示窓の「READING」の表示が消えるまでお待ちください。

3 ▶||を押す。

再生が始まります。
リモコンや本体のボタンで、早戻し／早送りや、選曲、フォルダ選択などの操作ができます。

ちょっと一言

- USB機器の再生でも、再生モードを選べます。メニューボタンを押して、「USB MENU」を選び、続いて「PLAYMODE」または「REPEAT」を選びます。詳しくは、「再生モードを変える」(14ページ)をご覧ください。なお、USB機器を再生するときはプログラム再生はできません。
- USB機器を本機につなぐと、自動的に充電を開始します。本機の電源が入っていないときでも充電できます。USB機器が充電されない場合は、USB機器を取りはずして、再度接続してください。USB機器の充電状態について詳しくは、USB機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 本機での再生順序は、接続されたデジタル音楽プレーヤーの再生順序とは異なる場合があります。
- USB機器を取りはずすときは、本機の電源を切ってください。電源が入っている状態でUSB機器を取りはずすと、USB機器に保存されているデータが破損することがあります。
- USBケーブルの接続が必要な場合は、接続するUSB機器に付属されているUSBケーブルを使用してください。接続のしかたについて詳しくは、USB機器に付属されている取扱説明書をご覧ください。

- USB機器によっては、接続後「READING」が表示されるまでに時間がかかる場合があります。
- USBハブを介して、本機とUSB機器を接続しないでください。
- USB機器が接続されると、本機はUSB機器に保存されているすべてのファイルの読み込みを開始します。USB機器に保存されているフォルダやファイル数が多いと、読み終えるまでに時間がかかることがあります。
- 接続したUSB機器によっては、操作に対する反応が遅くなる場合があります。
- 本機は、エンコードソフトウェアや書き込み用ソフトウェアとの互換性についてすべてを保証するものではありません。USB機器内に保存されているオーディオファイルが元々互換性のないソフトウェアでエンコードされている場合、ノイズが発生する、再生が途切れる、まったく再生されないなど不具合が発生するおそれがあります。
- USB機器に対する本機の上限は次のとおりです。
 - 最大フォルダ数：1000*（ルートフォルダ含む）
 - 最大ファイル数：3000
 - 1つのフォルダ内で認識可能な最大ファイル数：250
 - 認識可能な最大階層（フォルダ）レベル：8
- * 再生可能なオーディオファイルが存在しないフォルダ、空フォルダも含まれます。フォルダ構成によっては本機で認識できるフォルダ数が少なくなる場合があります。
- 本機は、接続したUSB機器側で提供されるすべての機能をサポートしていません。
- オーディオファイルが含まれないフォルダは認識しません。
- 本機で再生できるオーディオ形式は、次のとおりです。
 - MP3：ファイル拡張子「.mp3」
 - WMA*：ファイル拡張子「.wma」
 - AAC*：ファイル拡張子「.m4a」「.mp4」「.3gp」上記の拡張子であっても、拡張子と実際のファイルが異なる場合は、ノイズや不具合が発生するおそれがあります。
- * DRM（デジタル著作権保護）が付加されているファイルや、音楽配信サイトなどで購入した音楽データは著作権保護されているため本機では再生できません。著作権保護されている曲やファイルを再生しようとした場合は、本機は著作権保護されていない次の曲／ファイルを再生します。
- USB端子にiPhone/iPad/iPodをつないでも再生できません。この場合は充電のみ可能です。iPhone/iPad/iPodを再生する場合は、BLUETOOTH接続を行ってください。

x-アプリで転送した曲は、本機で再生できません。

外部入力機器の曲を聞く

外部入力機器の曲を再生する

外部入力機器を本機につないで、外部入力機器の曲を本機で聞くことができます。

ご注意

あらかじめ、音量ーボタンを押して、音量を下げてください。

- 1 ファンクションボタンを押して、「AUDIO IN」を選ぶ。
- 2 本機背面のAUDIO IN（外部入力）端子に外部入力機器の出力端子をつなぐ。
- 3 外部入力機器を再生する。
再生が始まったら、外部入力機器側の音量を調節してください。
- 4 音量＋／－ボタンを押して、音量を調節する。

ご注意

外部入力機器の音量が小さすぎると、本機のオートスタンバイ機能によって自動的にスタンバイモードに移行します。詳しくは、「オートスタンバイ機能を設定する」（27ページ）をご覧ください。

BLUETOOTH®接続でワイヤレスで聞く

BLUETOOTH機器をペアリングして音楽を聞く

BLUETOOTH機器に保存された曲をワイヤレスで楽しめます。はじめに、BLUETOOTH機器を本機に登録(ペアリング)します。

ご注意

- 本機とBLUETOOTH機器を1 m以内に置いてください。
- お使いのBLUETOOTH機器がワンタッチ接続(NFC)に対応している場合は、次の手順を行う必要はありません。「ワンタッチで接続して音楽を聞く(NFC)」(20ページ)をご覧ください。

1 ファンクションボタンを押して、「BT AUDIO」を選ぶ。

2 メニューボタンを押す。

3 ↑/↓で「BT MENU」を選び、⊕を押す。

4 ↑/↓で「PAIRING」を選び、⊕を押す。

5 ↑/↓で「OK」を選び、⊕を押す。

表示窓の「PAIRING」の表示が点滅を開始し、本機がペアリングモードになります。

6 BLUETOOTH機器側で本機を検索する。

BLUETOOTH機器の画面に、検出した機器の一覧が表示されます。

7 「SONY:CMT-X5CD」(本機)を選ぶ。

BLUETOOTH機器の画面でパスコードの入力を要求された場合は、「0000」を入力してください。

本機が表示されない場合は、もう一度手順1から操作してください。

ペアリングが完了すると、表示窓の「PAIRING」が接続したBLUETOOTH機器名に切り換わります。表示窓のBLUETOOTHマークが点灯します。

8 ▶||を押す。

再生が始まります。

BLUETOOTH機器によっては、▶||ボタンをもう一度押してください。また、BLUETOOTH機器でミュージックプレイヤーの起動が必要な場合があります。

9 音量+/-ボタンで音量を調整する。

調整できない場合は、BLUETOOTH機器で調整してください。

リモコンや本体のボタンで、早戻し/早送りや、選曲、フォルダ選択などの操作ができます。

ちょっと一言

BLUETOOTH接続中でも、他のBLUETOOTH機器とのペアリングや接続を行うことができます。その場合は、現在の接続は解除されます。

ご注意

- 一部のBLUETOOTH機器では、上記の操作に対応していない場合があります。また、機器によっては、実際の動作は異なります。
- 一度ペアリングを行った機器は、再びペアリングする必要はありませんが、以下の場合は再度ペアリングが必要です。
 - 修理を行ったなど、ペアリング情報が消去されたとき
 - 10台以上の機器をペアリングしたとき
本機は9台までの機器をペアリングできます。10台目のペアリングを行うと、接続した日時が最も古い機器のペアリング情報が削除されます。
 - 接続相手の機器から、本機との接続履歴が削除されたとき
 - 本機を初期化したり、本機で接続履歴を削除したりしたとき
この場合は、すべてのペアリング情報が消去されます。
- 本機で再生する音楽をBLUETOOTHスピーカーに送信して聞くことはできません。
- パスコードは、パスキー、PINコード、PINナンバー、パスワードなどと呼ばれる場合があります。

BLUETOOTH機器のアドレスを確認するには

表示窓にBLUETOOTH機器で設定された機器名が表示されているときに、表示切換ボタンを押すと、BLUETOOTH機器のアドレスが、2画面に分けて計8秒間表示されます。

BLUETOOTH接続を切断するには

BLUETOOTH機器側から接続を切断してください。表示窓に「BT AUDIO」が表示されます。お使いの機器によっては、音楽の再生終了と同時に、自動的に切断する場合があります。

ペアリング情報を削除するには

1 「BLUETOOTH機器をペアリングして音楽を聞く」(19ページ)の手順3の後で「DEL LINK」を選び、**+**を押す。

2 **↑/↓**で「OK」を選び、**+**を押す。
表示窓に「COMPLETE」が表示され、すべてのペアリング情報が削除されます。

ご注意

ペアリング情報を削除した場合、再びペアリングを行わないとBLUETOOTH接続はできません。

登録済みの機器の音楽を聞く

「BLUETOOTH機器をペアリングして音楽を聞く」(19ページ)の手順1の後で、BLUETOOTH機器を操作して本機と接続し、本機の**▶II**ボタンを押して再生を開始してください。

ワンタッチで接続して音楽を聞く(NFC)

NFCとは、携帯電話やICタグなど、さまざまな機器間で近距離無線通信を行うための技術です。

NFC対応スマートフォン／タブレットを本機にタッチするだけで、自動的に本機の電源が入り、機器登録(ペアリング)、BLUETOOTH接続が行われます。

あらかじめ、スマートフォン／タブレットのNFC機能をオンにしてください。

1 スマートフォン／タブレットを本機のNマークにタッチする。

スマートフォン／タブレットが振動するまでタッチし続けてください。

スマートフォン／タブレット側のタッチ位置については、お使いのスマートフォン／タブレットの取扱説明書をご覧ください。

2 接続が完了したら、**▶II**を押す。

再生が始まります。

接続を切断するには、スマートフォン／タブレットで本機のNマークにもう一度タッチします。

ちょっと一言

- NFC機能がFeliCa機能を搭載したスマートフォン／タブレット(対応OS：Android™ 4.1以降)が対応しています。詳しくは、下記をご覧ください。
<https://www.sony.jp/support/netjuke/>
- 本機とのBLUETOOTH接続時に、他のNFC対応スマートフォン／タブレットを本機にタッチすると、タッチしたスマートフォン／タブレットとの接続に切り換わります。

高音質コーデック (AAC/aptX)で再生する

BLUETOOTH機器から、AACやaptXのコーデックで受信します。通常よりも高音質で再生できます。

お買い上げ時は、「BT ACC」「BT APTX」とも「ON」に設定されています。

- 1 メニューボタンを押す。
- 2 ↑/↓で「BT MENU」を選び、⊕を押す。
- 3 ↑/↓で「BT AAC」(AACコーデック)、または、「BT APTX」(aptXコーデック)を選び、⊕を押す。
- 4 ↑/↓で「ON」(入)を選び、⊕を押す。

ご注意

- BLUETOOTH接続中に設定すると、BLUETOOTH接続が解除されます。
- 受信中に音が途切れるなどした場合は、手順4で「OFF」を選び、設定を解除してください。その場合は、SBCコーデックで受信します。

ウォークマン®や“ポケットビット”に録音する

CDやラジオ、外部入力機器からウォークマン®や“ポケットビット”に録音する

本機の操作のみでUSB機器(ウォークマン®や“ポケットビット”(USBメモリ))に録音できます。

ちょっと一言

動作確認済みのUSB機器(ウォークマン®や“ポケットビット”)について詳しくは、「対応機器とバージョン」(33ページ)をご覧ください。

最新の対応機種については、下記ホームページの機種別サポートをご覧ください。

<https://www.sony.jp/support/netjuke/>

ご注意

- ウォークマン®に録音する場合は、あらかじめ、ウォークマン®のHOLD機能を解除してください。詳しくは、ウォークマン®の取扱説明書をご覧ください。
- 本機にウォークマン®を接続するときは、「データベース作成中」の表示がウォークマン®の表示窓から消えていることを確認してください。
- 録音中や削除中に、本機からUSB機器をはずさないでください。USB機器のデータが破損したり、USB機器が故障するおそれがあります。
- 次のケースでは、録音できません。
 - ー 最大フォルダ数：1000を超えた場合(ROOTフォルダ／プリインストールされているフォルダを含む)
 - ー 最大ファイル数：3000を超えた場合
 - ー 1つのフォルダ内で認識可能な最大ファイル数：250を超えた場合

これらファイル数、フォルダ数の上限は、USB機器の階層構造の状態によって異なります。そのため、不要なフォルダやファイルはUSB機器に保存しないでください。

CDの曲を録音する

以下は、CD1枚をそのまま録音するときの手順です(REC ALLモード)。1曲だけ録音したり(REC1モード)、曲を並べ換えて録音したり(REC PGMモード)する場合は、手順4をご覧ください。うえ、操作を変更してください。

1 本機背面の(USB)端子にUSB機器を接続する。

ウォークマン®をつなぐときは、ウォークマン®に付属のUSBケーブルをお使いください。

2 ファンクションボタンを押して、「CD」を選ぶ。

3 本機にCDを挿入する。

自動的に再生が始まった場合は、■ボタンを押して再生を停止し、手順4に進んでください。

4 録音ボタンを押す。

「REC ALL」が点滅します。

しばらくすると「REC >>> USB」が表示され再生を開始し、録音が始まります(REC ALLモード)。

REC 1モード：1曲だけ録音したいときは、手順4の前に録音したい曲を再生してください。

REC PGMモード：曲を並べかえてプログラム録音したいときは、手順4の前にプログラムを行ってください。詳しくは、「好きな順に曲を聞く(プログラム再生)」(15ページ)をご覧ください。

録音を途中で止めるには

■ボタンを押してください。

MP3ディスクの特定のフォルダのみを録音するには

手順4の前に、メニューボタンを押して、「CD MENU」、「PLAYMODE」、「FOLDER」の順に選びます。□+/-ボタンでフォルダを選び、手順4に進んでください。

ちょっと一言

- 録音した曲の保存先については、「録音した曲の保存先について」(24ページ)をご覧ください。

- 録音した曲はMP3形式で保存されます。CD-DAディスクから録音する場合は、ビットレートを選べます。MP3から録音する場合は、音源と同じビットレートになります。詳しくは、「ビットレートを変更する」(23ページ)をご覧ください。
- CD-DAディスクから録音するのに必要なUSB機器の空き容量(1分あたりの目安)は下記となります。
 - ー ビットレートが128 kbpsの場合：約1 MB
 - ー ビットレートが256 kbpsの場合：約2 MB
 MP3ディスクから録音する場合には、より多くの空き容量が必要となることがあります。詳しくは、お使いのUSB機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- CD-DAディスクから録音した場合、タイトルは付きません。ファイル名に通し番号が付きま。詳しくは「フォルダ名とファイル名について」(24ページ)をご覧ください。
- 録音中は、高速録音モードとなり音は再生されません。

ラジオや外部入力機器の曲を録音する

1 本機背面の (USB)端子にUSB機器を接続する。

ウォークマン®をつなぐときは、ウォークマン®に付属のUSBケーブルをお使いください。

2 ファンクションボタンを押して、音源を準備する。

FM/AMラジオ：「FM」または「AM」を選び、ラジオ局を受信します。

外部入力機器：「AUDIO IN」を選び、外部入力機器を本機のAUDIO IN端子につないで、再生の準備をします。

3 録音ボタンを押す。

表示窓に「REC」が表示され、本機が録音待ち状態になります。
しばらくすると、「PUSH REC」が表示されます。

4 録音ボタンを押す。

表示窓に「REC >>> USB」が表示され、録音が始まります
外部入力機器を録音する場合は、録音と同時に再生を開始してください。

録音を途中で止めるには

■ ボタンを押してください。

ちょっと一言

60分ごとに自動的にトラックマークが付加され、トラックが分割されます。また、Ⓢボタンを押すと、トラックマークを手動で付けることができます。

ご注意

- USB機器に保存されている曲やファイル数が多い場合、本機の録音ボタンを押してから「PUSH REC」が表示されるまで、時間がかかる場合があります。ラジオなどを録音する場合は、余裕をもって準備して、「PUSH REC」を表示させておいてください。
- レコードプレーヤーを外部入力機器として接続することはできません。

ビットレートを変更する

CD-DAディスクや、ラジオ、外部入力機器から録音する場合は、ビットレートを変更できます(お買い上げ時は128 kbpsに設定されています)。ビットレートを256 kbpsに変更すると、音質が向上し、ファイルサイズは大きくなります。

ご注意

ビットレートの変更は、録音を開始する前に行ってください。

1 メニューボタンを押す。

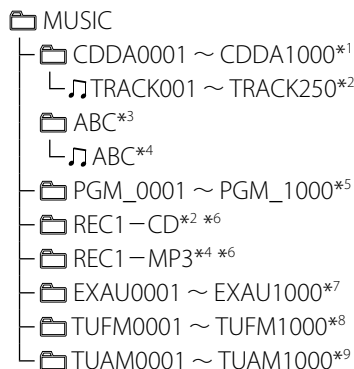
2 ↑/↓で「REC MENU」を選び、Ⓢを押す。

3 ↑/↓で「BIT RATE」を選び、Ⓢを押す。

4 ↑/↓で「128KBPS」または「256KBPS」を選び、Ⓢを押す。

録音した曲の保存先について

本機で録音した曲は、USB機器(ウォークマン®や“ポケットビット”)の「MUSIC (ミュージック)」フォルダの中に保存されます。音源の種類や録音モードによって以下のように保存されます。



- *1 CD-DAディスクから録音したアルバム
- *2 CD-DAディスクから録音した曲
- *3 MP3ディスクから録音したフォルダ (音源と同じフォルダ名を表示)
- *4 MP3ディスクから録音したファイル (音源と同じファイル名を表示)
- *5 REC PGMモードで録音した曲をプログラムごとにフォルダを生成
- *6 REC1モードで録音した曲を保存
- *7 外部入力から録音した曲を保存
- *8 FMラジオから録音した曲を保存
- *9 AMラジオから録音した曲を保存

ちょっと一言

CD-DAディスクから録音した場合など、アルバム情報やアーティスト情報がない録音データは、ウォークマン®の「アルバム」や「アーティスト」などでは「不明」に分類されます。

フォルダ名とファイル名について

USB機器(ウォークマン®や“ポケットビット”)へ録音すると、USB機器内の「MUSIC (ミュージック)」フォルダには以下の命名ルールに従ってフォルダとMP3ファイルが生成されます。

REC ALLモード時

音源	フォルダ名	ファイル名
MP3	音源と同じ*1	
CD-DA	CDDA0001*2	TRACK001*3

REC1モード時

音源	フォルダ名	ファイル名
MP3	REC1-MP3*4	音源と同じ*1
CD-DA	REC1-CD*4	TRACK001*3

REC PGMモード時

音源	フォルダ名	ファイル名
MP3	PGM_0001*2	音源と同じ*1
CD-DA		TRACK001*3

FM/AMラジオ、外部入力からの録音

録音ソース	フォルダ名	ファイル名
FM	TUFM0001*2	TRACK001*3
AM	TUAM0001*2	
外部入力	EXAU0001*2	

- *1 ファイル名、フォルダ名は最大60文字まで表示されます。
- *2 フォルダ番号が連番で割り振られます(最大1000(「ROOT」フォルダおよび「MUSIC」フォルダ含む))。
- *3 ファイル番号が連番で割り振られます。
- *4 最初にREC1モードで録音を実行したときにCD-DAディスクは「REC1-CD」、MP3ディスクは「REC1-MP3」フォルダが生成されます。以後、REC1モードで録音を行うと、ディスクの種類に合わせて常に「REC1-CD」、「REC1-MP3」フォルダ内に録音した曲が保存されます。

ご注意

- パソコンを使って、曲名やファイル名などの文字編集をすることができます。
- USB機器がデータベースの更新中のときは、更新が終わるまで本機に接続しないでください。
- 認識できるフォルダの数は、ROOT、MUSIC、空フォルダなどデバイス内のすべてのフォルダを含めて、1000までです。

- REC ALLモードでの録音時は、シャッフル再生またはリピート再生モードは自動的に解除され、ノーマル再生モードとなります。
- CDファンクションからの録音中は、高速録音モードとなり、音は聞けません。
- CD-TEXT情報を持つCD-DAトラックが音源の場合、録音後のMP3ファイルにCD-TEXT情報は含まれません。
- CD-DAディスクからの録音を途中で止めると、曲の途中まで録音された不完全なファイルが生成されます。MP3ディスクからの録音を途中で止めた場合は、ファイルは生成されません。
- 次のような条件下では、録音は自動的に停止します。
 - ー 録音中にUSB機器の空き容量がなくなった。
 - ー USB機器に録音できるフォルダ数または曲数が本機の仕様の上限に達した。
- 録音時にUSB機器に同名のフォルダやファイルが存在するときは、生成時のフォルダまたはファイルの名前の最後に、連番が追加されます。このため、もともとあったフォルダやファイルが上書きされることはありません。

本機で録音した曲を削除する

本機でUSB機器(ウォークマン®や“ポケットビット”)に録音した曲やフォルダを、本機を使って削除できます。

1 本機背面の(USB)端子にUSB機器を接続する。

ウォークマン®をつなぐときは、ウォークマン®に付属のUSBケーブルをお使いください。

2 ファンクションボタンを押して、「USB」を選ぶ。

3 曲削除ボタンを押す。

次のメッセージが順に表示されます。

CHECKING

USB機器内のデータ読み込み中



SELECT



FLDR/TRK

「フォルダ」または「トラック(曲)」を選択するメッセージ。選択するまで「SELECT」→「FLDR/TRK」が繰り返し表示されます。

本機で削除できる曲がない場合は、表示窓に「NO TRACK」が表示されます。

4 ◀◀/▶▶または📁+/-を繰り返し押して、削除したい曲やフォルダを選ぶ。

表示窓に曲名またはフォルダ名が表示され、続いて「ERASE?」が表示されます。

5 ▶||を押して曲を再生し、削除対象の曲やフォルダが正しいか確認する。

フォルダを選んだ場合は1曲目が再生されます。

再生中には次のボタンが使用できません。

◀◀/▶▶ (前/次)ボタン、◀◀/▶▶ (早戻し/早送り)ボタン、▶▶ (再生/一時停止)ボタン、■ (停止)ボタン
選択を間違えたときは、■ボタンを押して再生を停止し、◀◀/▶▶ボタンや◀+/-ボタンで選び直してください。

6 ④を押す。

表示窓に「ERASE??」が表示されます。
選び直すときは、戻るボタンを押して、前の画面に戻ってください。

7 ④を押す。

表示窓に「ERASING」が表示され、削除を開始します。完了すると「COMPLETE」が表示されます。削除を続けるときは、手順4から繰り返してください。

削除を終了するには

■ボタンを押して削除モードを解除します。
再生中は、■ボタンを2回押してください。

ちょっと一言

- ■ボタンを押すと、削除の操作を取り消すことができます。手順7で④ボタンを押した後は取り消せませんので、ご注意ください。
- 削除する曲やフォルダを選択した後も、戻るボタンを押すと、未選択状態に戻すことができます。手順7で④ボタンを押した後は戻せませんので、ご注意ください。
- 本機で録音した曲やフォルダのほかに、パソコンからUSB機器にドラッグアンドドロップで転送した曲も削除できます。本機で再生できるオーディオ形式のファイルのみ削除できます。
- 本機で削除するときに認識できるファイルとフォルダの総数は、ファイル数3000、フォルダ数1000までです。1つのフォルダ内で認識できるファイル数は250までです。
USB機器に3000以上のファイル、1000以上のフォルダが保存されている場合、本機が認識できる数以上のファイル、フォルダは表示窓に表示されません。
USB機器のファイルやフォルダを削除するとき、表示されないファイル、フォルダがある場合は、ファイル、フォルダ数が上限数を超過していないか確認してください。
- 本機で削除できない曲やフォルダは、パソコンを使用して削除してください。詳しくは、USB機器の取扱説明書をご覧ください。
- 本機で録音した曲の保存先やファイル名については、「録音した曲の保存先について」(24ページ)をご覧ください。

ご注意

- いったん削除した曲やフォルダは、元に戻すことができません。削除するときは、充分注意して行ってください。
- 曲削除ボタンを押すと、表示窓に「CHECKING」が表示され、USB機器の全データの読み込みを行います。USB機器に多数のフォルダやオーディオファイルがあると、表示が消えるのに時間がかかる場合があります。

その他の設定

オートスタンバイ機能を設定する

無操作または無音の状態が約15分経過すると、本機は自動的にスタンバイモードに移行します(オートスタンバイ機能)。お買い上げ時はオンに設定されています。

- 1 メニューボタンを押す。
- 2 ↑/↓で「STBY:MODE」を選び、⊕を押す。
- 3 ↑/↓で「AUTO:STBY」を選び、⊕を押す。
- 4 ↑/↓で「ON」(入)、または、「OFF」(切)を選び、⊕を押す。

ちょっと一言

本機がスタンバイモードに移行するときは、2分前に表示窓に「AUTO:STBY」が表示されます。

ご注意

- オートスタンバイ機能をオンに設定していても、以下の場合はスタンバイモードへ移行しません。
 - FM、AMファンクションを使っているとき
 - 音声信号を検出したとき
 - 曲を再生しているとき
 - 再生／録音タイマーまたはスリープタイマー開始のための処理が始まったとき
- オートスタンバイ機能をオンに設定した状態で次の操作を行うと、オートスタンバイモードへ移行するまでの時間(約15分)をリセットして再カウントします。
 - USBファンクションでUSB機器を接続したとき
 - 本体またはリモコンの操作ボタンを押したとき

BLUETOOTHスタンバイモードを設定する

本機の電源が入っていない状態でも、BLUETOOTHの接続待ち状態にすることができます。お買い上げ時はオフに設定されています。

- 1 メニューボタンを押す。
- 2 ↑/↓で「STBY:MODE」を選び、⊕を押す。
- 3 ↑/↓で「BT STBY」を選び、⊕を押す。
- 4 ↑/↓で「ON」(入)、または、「OFF」(切)を選び、⊕を押す。
- 5 I/⏻を押して、本機の電源を切る。

ちょっと一言

本機能をオンに設定しておく、と、BLUETOOTH機器から本機に接続を行ったときに、自動的に本機の電源が入り、BLUETOOTHで音楽を聞くことができます。

BLUETOOTH信号オン／オフを設定する

本機の電源が入っているときに、BLUETOOTH信号を制御することができます。お買い上げ時は、オンに設定されています。

- 1 本機の電源を入れる。
- 2 表示窓にアンテナアイコンが点滅したら、本体のI◀◀とI/⏻を押し続ける。
- 3 「RF OFF」(BLUETOOTH信号オフ)または「RF ON」(BLUETOOTH信号オン)が表示されたら指を離す。

ちょっと一言

- 本機能をオフに設定すると、BLUETOOTH機能は使用できません。

- 本機能がオフのときに、NFC機能でスマートフォン／タブレットを本機にタッチすると、本機能はオンになります。
- 本機能がオフのときは、BLUETOOTHスタンバイモードをオンにすることはできません。
- BLUETOOTHスタンバイモードがオンのときに、本機能をオフにすると、BLUETOOTHスタンバイモードはオフになります。
- 本機能がオフのときは、本機とBLUETOOTH機器をペアリングすることはできません。

音質を調整する

お好みに合わせてステレオ効果やサウンド効果を設定できます。お買い上げ時は、「CA+」に設定されています。

CA+：ソニーおすすめの音質設定です。「P-EQ」が「R AND B/HIP HOP」に、「WIDE ST」が「NORMAL」に設定されています。

1 サウンドボタンを押す。

2 ↑/↓で「P-EQ」(サウンド効果)または「WIDE ST」(ステレオ効果)を選び、⊕を押す。

3 ↑/↓でお好みのサウンド効果またはステレオ効果を選び、⊕を押す。

P-EQ (EQUALIZER)：「R AND B/HIP HOP」「ROCK」「POPS」「CLASSIC」「JAZZ」「FLAT」「CUSTOM」
WIDE ST (WIDE STEREO)：「HIGH」「NORMAL」

音質を「CA+」に戻すには

手順3で「P-EQ」に「R AND B/HIP HOP」以外の項目を設定するか、「WIDE ST」に「NORMAL」以外の項目を設定します。その後、サウンドボタンを押して、↑/↓で「CA+」を選び、⊕を押します。

ちょっと一言

音質が「CA+」に設定されている場合、手順2で「CA+」は表示されません。

タイマーを使う

スリープタイマー、再生タイマー、録音タイマーの3種類のタイマーを設定できます。

ご注意

再生タイマーや録音タイマーが働いているときにスリープタイマーを使うと、スリープタイマーが優先されます。

スリープタイマーを設定する

指定した時間が経過すると、自動的に本機の電源が切れます。

1 メニューボタンを押す。

2 ↑/↓で「SLEEP」を選び、⊕を押す。

3 ↑/↓でスリープさせる時間を選び、⊕を押す。

「10MIN」(10分)から「90MIN」(90分)まで、10分刻みで選べます。

ちょっと一言

- スリープタイマー実行中に残り時間を確認するには、上記の手順1～2を行ってください。
- スリープタイマーは、本機の時計を合わせていない状態でも使用できます。

スリープタイマーを解除するには

上記の「スリープタイマーを設定する」の手順3で「OFF」を選びます。

再生タイマー／録音タイマーを設定する

ご注意

タイマーを設定する前に、本機の時計を合わせてください(13ページ)。

再生タイマー

毎日、指定した時間に、CDやUSB機器を自動的に再生したり、ラジオを聞いたりできます。手動で中止しない限り、タイマー設定は解除されません。

録音タイマー

指定した時間から、自動的にラジオを録音できます。録音を行うと、設定は解除されます。

- 1 音源を準備する。
- 2 メニューボタンを押す。
- 3 ↑/↓で「TIMER」を選び、⊕を押す。
- 4 ↑/↓で「PLAY SET」(再生タイマー)、または、「REC SET」(録音タイマー)を選び、⊕を押す。
開始時間の「時間」が点滅します。
- 5 ↑/↓で時間を選び、⊕を押す。
同様に、開始時間の「分」、終了時間の「時間」「分」を設定します。
- 6 ↑/↓で音源を選び、⊕を押す。
設定確認が表示されます。
- 7 I/⏻を押して、本機の電源を切る。

ちょっと一言

- タイマー開始時間よりも、以下の時間分だけ、前もって本機の電源が入ります。
再生タイマー
 - ー 音源がラジオの場合：約15秒前
 - ー 音源がCDまたはUSB機器の場合：約90秒前
- 録音タイマー：約90秒前
- CDを再生する場合は、プログラム再生とあわせて再生タイマーを設定できます。あらかじめ、「好きな順に曲を聞く(プログラム再生)」(15ページ)に従って、プログラムしてください。
- ラジオを音源にする場合は、あらかじめ選局してください(16ページ)。
- タイマーの設定を変更するには、手順をはじめからやり直してください。

ご注意

- 開始時間に電源が入っているとタイマーは作動しません。タイマーが開始するまで、本機を操作しないでください。
- プリセット選局以外の方法でラジオ局を受信して(オートチューニング/マニュアルチューニング)、タイマーを設定した場合は、タイマー設定後にラジオ局の周波数やバンド(FM/AM)を変更すると、タイマー起動時の周波数やバンドも変更されます。
- プリセット選局でラジオ局を受信して、タイマーを設定した場合は、タイマー設定後にラジオ局の周波数やバンド(FM/AM)を変更しても、タイマーには反映されません。タイマー設定時の放送局に固定されます。

タイマーの設定を確認するには

- 1 メニューボタンを押す。
- 2 ↑/↓で「TIMER」を選び、⊕を押す。
- 3 ↑/↓で「SELECT」を選び、⊕を押す。
- 4 ↑/↓で「PLAY SEL」(再生タイマー)または「REC SEL」(録音タイマー)を選び、⊕を押す。
タイマーの設定が表示されます。

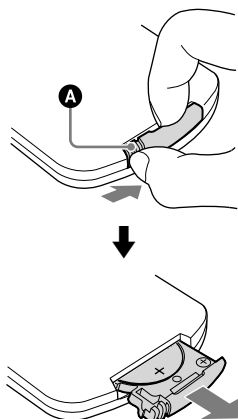
タイマーを中止するには

「タイマーの設定を確認するには」(29ページ)の手順3の後に、「OFF」(切)を選び、⊕を押します。

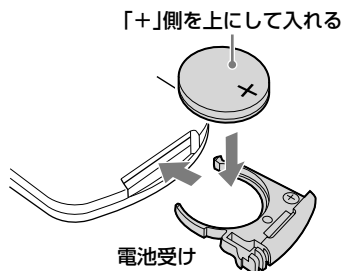
リモコンの電池を交換する

電池が消耗すると、リモコンが正常に動作しなくなったり、動作距離が短くなったりします。その場合は、新しいリチウム電池CR2025（別売り）と交換してください。

- 1 リモコン裏面の**A**を矢印の方向に寄せ、電池受けを引き出す。



- 2 電池の「+」面を上側にして入れ、電池受けをリモコンに挿入する。



ご注意

- 接触不良を防ぐため、電池を乾いた布でよく拭いてください。
- ピンセットなどの金属類と電池を一緒に携帯・保管しないでください。電池の+と-が金属類とながるとショートし、発熱することがあります。

電池に関する警告

電池の+と-の向きをまちがえて入れると破裂する恐れがあります。

内蔵の電池と同一タイプの電池をお使いください。

「SongPal」でできること

本機のサウンド設定

お好みの音質や、ソニーおすすめの「ClearAudio+」を簡単に設定できます。

CDやUSB端子に接続された機器操作

本機に挿入されたCDや、USB端子に接続された機器の音楽を再生できます。

オーディオ機器によって「SongPal」でできる操作は異なります。アプリの仕様および画面デザインは予告なく変更する場合があります。

接続機器表示

SongPal対応機器を選ぶことができます。



オーディオ機器側の設定

さまざまなサウンド設定などを表示します。どの画面からも右フリックで表示できます。

HOME画面

本機のファンクションを一覧で表示し、選ぶことができます。

また、スマートフォン／タブレットにインストールされたアプリのショートカットを配置できます。



ミニプレーヤー

選んだファンクションを操作できます

使用上のご注意・主な仕様

使用上のご注意

再生できるディスク

- 音楽用CD-DAディスク
- CD-R/CD-RW (CD-DAトラックまたはMP3ファイルの音楽データ)

データの無いCD-R/CD-RWディスクを使用しないでください。ディスクにダメージを与えるおそれがあります。

再生できないディスク

- CD-ROM
- 音楽CDの規格に準拠していない形式で記録されたCD-RおよびCD-RWディスク、ISO9660 Level 1/Level 2またはJolietのフォーマットに準拠しないCD-RおよびCD-RWディスク
- マルチセッション方式で記録して、セッションクローズ処理をしていないCD-RおよびCD-RWディスク
- 記録品質の悪いCD-RおよびCD-RWディスク、傷、汚れのあるCD-RおよびCD-RWディスク、互換性の無いレコーダーで記録したCD-RおよびCD-RWディスク
- 書き込み用ソフトウェアやレコーダーによる「ファイナライズ処理」が正常に終了していないCD-RおよびCD-RWディスク
- MP3形式(MPEG 1 Audio Layer-3)以外のフォーマットのオーディオファイルが記録されたCD-RおよびCD-RWディスク
- 8 cm CD
- 円形以外の特殊な形状(カード型、ハート型、星型など)をしたディスク
- 紙やシールの貼られたディスク
- 中古ディスクやレンタルディスクで、セロハンテープやレンタルディスクのラベルなどの接着剤がはみ出したり、はがしたあとのあるディスク
- 盤面印刷で作成したラベルのインクが乾いていないディスク

CD-DAディスクの取り扱い方

- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方へ軽く拭きます。汚

れがひどいときは、少し湿らせた布で拭いたあと、乾いた布で水気を拭き取ってください。ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは使わないでください。

- 直射日光が当たる場所、車やトランクの中など、高温になるところには置かないでください。
- 市販のCDレンズ用クリーニングディスクは、本機では使わないでください。故障するおそれがあります。

設置時のご注意

- ぐらついた台の上や不安定な場所、振動する場所、ほこりの多い所、直射日光が当たる場所、照明器具の下、湿度が高い所、湿気の多い所、風通しの悪い場所、極端に寒い所などには、本機を設置しないでください。
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている場所に、本機を設置すると、変色、染みなどが残ることがあります。
- 部屋の暖房を入れた直後など、内部のレンズに水滴がつくことがあります(結露)。正常に動作しないばかりでなく、ディスクや部品を傷めることがあるので、本機を使わないときは、ディスクを取り出してください。結露が生じたときは、ディスクを取り出して、電源を入れたまま約1時間放置し、再び電源を入れ直してください。もし何時間たっても正常に動作しないときは、ソニーの相談窓口にご相談ください。

使用時の放熱について

- 本機を充電中、または長時間お使いになると、本体の温度が上昇することがありますが、故障ではありません。
- 大音量で鳴らし続けると、本体キャビネットの天板や側面、底面が熱くなることがあります。このようなときは、火傷などのけがの原因となるため、キャビネットなどに触れないでください。

お手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤溶液を少し含ませた柔らかい布などで拭いてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面を傷めるので、使わないでください。

重要

機器の名称と電気定格は、底面に表示されています。

対応機器とバージョン

ウォークマン®

動作確認済み機種(2014年4月現在)

最新の対応機種については、下記ホームページの「接続情報・対応表」をご覧ください。
<https://www.sony.jp/support/netjuke/>

シリーズ	機種名
	NW-ZX1
Fシリーズ	NW-F805/F806/F807 NW-F805K/F806K NW-F805BT NW-F807/S NW-F885/F886/F887
Sシリーズ	NW-S764/S765/S766 NW-S764K/S765K NW-S764BT NW-S774/S775 NW-S774K/S775K NW-S774BT NW-S774/WI NW-S774K/WI
Eシリーズ	NW-S784/S785/S786 NW-S785K/S786K
Mシリーズ	NW-E062/E063 NW-E062K/E063K NW-E083 NW-E083K
Wシリーズ	NW-M505
Zシリーズ	NW-W273 NW-W274S NW-WH303
Aシリーズ	NW-Z1050/Z1060/Z1070/ Z1070/W
	NW-A865/A866/A867

ご注意

- 対応機種以外のウォークマン®は使用しないでください。対応機種以外の機種の動作は保証しておりません。
- ウォークマン®をフォーマットするときは、ウォークマン®本体の機能(メモリーの初期化機能)を使ってフォーマットしてください。他の方法でフォーマットした場合、本機からの録音が行えないなどの不具合が発生するおそれがあります。詳しくは、ウォークマン®の取扱説明書をご覧ください。

- 本機はウォークマン®の動作のすべてを保証するものではありません。
- お使いのウォークマン®の機種によっては、本機の操作に対する反応が遅れる場合があります。

iPhone/iPad/iPod および iTunes

最新の対応機種については、下記ホームページの「接続情報・対応表」をご覧ください。
<https://www.sony.jp/support/netjuke/>

対応モデル	BLUETOOTH 接続
iPhone 5s	○
iPhone 5c	○
iPhone 5	○
iPhone 4s	○
iPhone 4	○
iPhone 3GS	○
iPad Air*	○
iPad mini Retinaディスプレイモデル*	○
iPad mini*	○
iPad (第4世代) *	○
iPad (第3世代) *	○
iPad 2*	○
iPad*	○
iPod touch (第5世代)	○
iPod touch (第4世代)	○
iPod touch (第3世代) *	○
iPod nano (第7世代) *	○

* "SongPal" は iPod touch (第3世代) と iPod classic、iPod nano には対応しておりません。

使用上のご注意・主な仕様

“SongPal”は、2014年1月現在、iPadには対応していません。

BLUETOOTH技術は、iPhone 5s、iPhone 5c、iPhone 5、iPhone 4s、iPhone 4、iPhone 3GS、iPod touch（第5世代）、iPod touch（第4世代）に対応しています。

USB機器

最新の対応機種については、下記ホームページの「接続情報・対応表」をご覧ください。
<https://www.sony.jp/support/netjuke/>

BLUETOOTH無線技術について

BLUETOOTH 無線技術は、パソコンやデジタルカメラなどのデジタル機器同士で通信を行うための近距離無線技術です。およそ10 m程度までの距離で通信を行うことができます。必要に応じて2つの機器をつなげて使うのが一般的な使いかたですが、1つの機器に同時に複数の機器をつなげて使うこともあります。

無線技術によってUSBのように機器同士をケーブルでつなぐ必要はなく、また、赤外線技術のように機器同士を向かい合わせたりする必要もありません。例えば片方の機器をかばんやポケットに入れて使うこともできます。BLUETOOTH標準規格は世界中の数千社の会社が賛同している世界標準規格であり、世界中のさまざまなメーカーの製品で採用されています。

BLUETOOTH機能の対応バージョンとプロファイル

プロファイルとは、BLUETOOTH機器の特性ごとに機能を標準化したものです。本機が対応しているBLUETOOTHのバージョンとプロファイルについて詳しくは、「主な仕様」（42ページ）をご覧ください。

ご注意

- BLUETOOTH機能を使うには、相手側 BLUETOOTH機器が本機と同じプロファイルに対応している必要があります。ただし、同じプロファイルに対応していても、BLUETOOTH機器の仕様により機能が異なる場合があります。
- BLUETOOTH無線技術の特性により、送信側での音声・音楽再生に比べて、本機側での再生がわずかに遅れます。

通信有効範囲

見通し距離で約10 m以内で使用してください。

以下の状況においては、通信有効範囲が短くなることがあります。

- － BLUETOOTH接続している機器の間に、人体や金属、壁などの障害物がある場合
- － 無線LANが構築されている場所
- － 電子レンジを使用中の周辺
- － その他の電磁波が発生している場所

他機器からの影響

BLUETOOTH機器と無線LAN (IEEE802.11b/g)は同一周波数帯(2.4 GHz)を使用するため、無線LANを搭載した機器の近辺で使用すると、電波干渉が発生し、通信速度の低下、雑音や接続不能の原因になる場合があります。この場合、次の対策を行ってください。

- 本機とBLUETOOTH機器を接続するときは、無線LANから10 m以上離れたところで行う。
- 10 m以内で使用する場合は、無線LANの電源を切る。

他機器への影響

BLUETOOTH 機器が発生する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では本機およびBLUETOOTH機器の電源を切ってください。

- 病院内／電車内／航空機内
- 自動ドアや火災報知機の近く

ご注意

- 本機は、BLUETOOTH 無線技術を使用した通信時のセキュリティーとして、BLUETOOTH標準規格に準拠したセキュリティー機能に対応しておりますが、設定内容等によってセキュリティーが充分でない場合があります。BLUETOOTH無線通信を行う際はご注意ください。
- BLUETOOTH 技術を使用した通信時に情報の漏洩が発生しなくても、弊社としては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機と接続するBLUETOOTH機器は、BLUETOOTH SIGの定めるBLUETOOTH標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。ただし、BLUETOOTH標準規格に適合していても、BLUETOOTH機器の特性や仕様によっては、接続できない、操作方法や表示・動作が異なるなどの現象が発生する場合があります。
- 本機と接続するBLUETOOTH機器や通信環境、周囲の状況によっては、雑音が入ったり、音が途切れたりすることがあります。

BLUETOOTH機器について

機器認定について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、認証を受けています。したがって、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機を分解／改造すること

周波数について

本機は2.4 GHz帯の2.4000 GHzから2.4835 GHzまで使用できますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。他の無線機器との電波干渉を防止するため、次の事項に注意してご使用ください。

本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等(以下「他の無線局」と略す)が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止(電波の発射を停止)してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書(裏表紙)をご覧ください。

2.4 FH1

この無線機器は2.4 GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、干渉距離は10 m以下です。

故障かな？と思ったら

本機を使用中にトラブルが発生した場合は、ソニーの相談窓口にご相談になる前に、もう一度下記の流れに従ってチェックしてください。メッセージ一覧(40ページ)も合わせてご覧ください。メッセージなどが表示されている場合は、書きとめておくことをおすすめします。

手順1 本書で調べる

この「故障かな？と思ったら」をチェックし、該当する項目を調べる。
本書の手順の中にも、様々な情報があります。該当する項目を調べてください。



手順2 「サポート・お問い合わせ」のホームページで調べる

<https://www.sony.jp/support/netjuke/>で調べる。
最新のサポート情報や、よくあるお問い合わせとその回答を掲載しています。



手順3 それでもトラブルが解決しないときは

ソニーの相談窓口(裏表紙)またはお買い上げ店にご相談ください。



ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- | | |
|--|------------|
| • 型名：CMT-X5CD | USB機器：モデル名 |
| • 故障の状態：できるだけ詳しく | • 購入年月日： |
| • 故障したときに再生していた音源： | • お買い上げ店： |
| ディスク：ディスク名 | |
| ウォークマン®：モデル名(「対応機器とバージョン」(33ページ)から選択) | |
| iPhone/iPad/iPod：モデル名(「対応機器とバージョン」(33ページ)から選択) | |

スタンバイランプが点滅しているときは

すぐに電源プラグを抜いて、交流100V以外のコンセントに接続していないかどうか確認してください。

異常がなければ、スタンバイランプが点灯していないことを確認して、再度電源プラグをコンセントにつなぎ、電源を入れてください。それでもトラブルが解決しないときは、ソニーの相談窓口(裏表紙)またはお買い上げ店にご相談ください。

共通

電源が入らない。

- 電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。

本機が突然スタンバイモードに移行してしまう。

- 本機のオートスタンバイ機能によって、無操作または無音の状態が約15分経過すると自動的にスタンバイモードに移行します。詳しくは、「オートスタンバイ機能を設定する」(27ページ)をご覧ください。

時計設定や再生／録音タイマーの操作が突然キャンセルされる。

- 無操作の時間が約1分経過すると、時計設定や再生／録音タイマーの操作は自動的にキャンセルされます。はじめてから操作をやり直してください。

音が出ない。

- 本機の音量を上げてください。
- AUDIO IN (外部入力) 端子に外部入力機器を正しく接続し、本機のファンクションを外部入力(AUDIO IN)に切り換えてください。
- 一時的にラジオ局が放送を中止している場合があります。

ブーンという音がする、ノイズがひどい。

- テレビやビデオなどのノイズの原因になりやすい機器から本機を離して設置してください。
- 電源プラグを別のコンセントに接続してみてください。

- 別売りのノイズフィルター付き電源タップの使用をおすすめします。ノイズが低減できる場合があります。

リモコンで操作できない。

- リモコンと本体の間の障害物を取り除き、本体を蛍光灯から離して設置してください。
- リモコンを本体のリモコン受光部に向けてください。
- リモコンを本体に近づけて操作してください。
- リモコンの電池を新しいものに交換してください。

CD-DA/MP3ディスク

表示窓に「LOCKED」が表示され、ディスクスロットからディスクを取り出せない。

- お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご相談ください。

ディスクやファイルを再生できない。

- 「ファイナライズ処理」が行われていないディスク(書き込み済みのCD-RやCD-RWで、さらに書き込みが可能な状態のディスク)が入っています。
- ディスクのレーベル面(印刷面)が手前になっているか確認してください。面を反対にしてディスクを挿入すると、表示窓に「CAN'T PLAY」が表示され再生できません。

音飛びする、再生が始まらない。

- ディスクが汚れている、またはディスクに傷がついている。汚れの場合は、拭き取ってください。
- 振動のない場所(安定した台の上など)に本機を設置してください。

再生が1曲目から始まらない。

- シャッフル再生やプログラム再生になっていないか確認してください(14ページ)。

再生が始まるまでに時間がかかる。

- 次のような場合、ディスクの再生が始まるまでにしばらく時間がかかることがあります。

- ー ディスク上のファイル構造が極端に複雑になっている。
- ー マルチセッション形式で記録したディスク。
- ー フォルダ数が多いディスク。

ウォークマン® / “ポケットビット”

対応するウォークマン®については、「対応機器とバージョン」(33ページ)をご覧ください。

ウォークマン® / “ポケットビット”に録音できない。

- 「NO SUPPORT」と表示されるときは、お使いのウォークマン® / “ポケットビット”が本機での録音に対応していません。

録音が始まらない。

- 次のような原因が考えられます。
 - ー ウォークマン® / “ポケットビット”に空き容量がない。
 - ー 録音可能なファイルやフォルダ数が上限に達している。

録音が完了前に停止してしまう。

- 次のような原因が考えられます。
 - ー ウォークマン® / “ポケットビット”に空き容量がない。
 - ー 録音可能なファイルやフォルダ数が上限に達している。
- 本機の電源とウォークマン®の電源を入れ直してから録音をやり直してください。

録音に失敗する。

- 対応機種以外のウォークマン® / “ポケットビット”を使っている。
- 本機の電源とウォークマン®の電源を入れ直してから録音をやり直してください。
- 録音中に、本機からウォークマン® / “ポケットビット”をはずした。
録音中にこのような操作を行うと、曲の途中まで録音された不完全なファイルがウォークマン® / “ポケットビット”に残る場合があります。不完全に録音されたファイルをウォークマン® / “ポケットビット”から削除し(25ページ)、録音をやり直してください。詳しくは、ウォークマン® / “ポケットビット”の取扱説明書をご覧ください。それでも録音に失敗する場合は、ウォー

クマン® / “ポケットビット”の故障の可能性があります。お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご相談ください。

- ウォークマン® / “ポケットビット”への録音や消去を多く繰り返すと、ウォークマン® / “ポケットビット”内部のファイル構造の断片化によって、録音動作に必要な連続した空き容量が確保できなくなり、録音に失敗することがあります。このような場合には、ウォークマン® / “ポケットビット”の不要データを削除するなどして空き容量を確保してください。詳しくは、ウォークマン® / “ポケットビット”の取扱説明書をご覧ください。それでも録音に失敗する場合は、お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご相談ください。

ウォークマン® / “ポケットビット”からファイルやフォルダを削除できない。

- 「NO SUPPORT」と表示されるときは、お使いのウォークマン® / “ポケットビット”が本機での削除に対応していません。
対応機種以外のウォークマン® / “ポケットビット”を使っている場合は、パソコン上で削除してください。詳しくは、ウォークマン® / “ポケットビット”の取扱説明書をご覧ください。
- 削除中に、本機からウォークマン® / “ポケットビット”をはずした、またはウォークマン®の電源を「切」にした。
削除中にこのような操作を行うと、正常に削除が行われません。削除をやり直してください。ウォークマン® / “ポケットビット”の取扱説明書も合わせてご覧ください。それでも削除できない場合は、ウォークマン® / “ポケットビット”の故障の可能性があります。お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご相談ください。

USB機器

対応するUSB機器については、「対応機器とバージョン」(33ページ)をご覧ください。

対応していないUSB機器を接続している。

- 次のような問題が発生することがあります。
 - ー USB機器が認識されない。
 - ー ファイルまたはフォルダの名前が表示されない。

- － 再生できない。
- － 音がとぶ。
- － ノイズが出る。
- － 歪んだ音出力される。

音が出ない。

- USB機器が正しく接続されていません。本機の電源を切り、USB機器を接続し直してください。

ノイズ・音飛びが発生する、音が歪む。

- 対応していないUSB機器を接続しています。互換性のあるUSB機器を接続してください。
- 本機の電源を切りUSB機器を接続し直したあと、本機の電源を入れてください。
- 音源そのものにノイズや歪みがないか確認してください。ノイズは転送の過程で混入する場合があります。このようなときは、ファイルを削除してからもう一度転送してください。
- ファイルをエンコードするときのビットレートが低い。ビットレートを上げてUSB機器へ転送してください。

長時間「READING」が表示される。または再生が始まるまで時間がかかる。

- 次のような場合、USB機器の読み込みに時間がかかることがあります。
 - － USB機器に保存されているファイルやフォルダ数が多い。
 - － USB機器内のファイル構造が極端に複雑になっている。
 - － メモリー容量が大きすぎる。
 - － USB機器内部のメモリが壊れている。

曲名やフォルダ名(アルバム名)が正しく表示されない。

- USB機器に保存されているデータが破損している可能性があります。もう一度転送をやり直してください。
- 本機で表示できる文字コードは次のとおりです。
 - － 大文字(A～Z)。
 - － 数字(0～9)。
 - － 記号(<>*,[,]@¥_)。
 その他の文字は「_」で表示されます。

USB機器が認識されない。

- 本機の電源を切りUSB機器を接続し直したあと、本機の電源を入れてください。
- 対応していないUSB機器を接続している。
- USB機器が正しく動作しない場合は、USB機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

再生が始まらない。

- 本機の電源を切りUSB機器を接続し直したあと、本機の電源を入れてください。
- 対応していないUSB機器を接続している。

再生が1曲目から始まらない。

- 再生モードがシャッフルなどノーマル再生以外のモードにセットされていないか確認してください。

USB機器が充電されない。

- USB機器がUSB端子に正しく接続されているかどうか確認してください。
- 対応していないUSB機器を接続している。
- USB機器を取りはずして、再度接続してください。USB機器の充電状態について詳しくは、USB機器の取扱説明書をご覧ください。

ラジオ

雑音が入る(「STEREO」が点滅する)、または放送が受信できない。

- アンテナを正しく接続してください。
- 受信状態のよい場所や方向を探し、アンテナを設置し直してください。
- アンテナを本体や他のAV機器から離してください。
- 本機の近くにある電気器具の電源を切ってください。

複数の放送局が同時に聞こえる。

- アンテナの場所や方向を調整してアンテナを設置し直してください。
- アンテナをコードクリップなどで束ね、長さを調整してください。

お買い上げ時の状態にリセットするには

「故障かな?と思ったら」の該当項目をチェックしても正常に動作しない場合は、次の手順で本機をお買い上げ時の状態にリセットしてください。

本体のボタンを使ってリセットを行います。

- 1 電源プラグをコンセントから抜き、スタンバイランプが点灯していないことを確認した後に、再度接続して、電源を入れる。
- 2 本体のFUNCTIONボタンとI/⏻ボタンを「RESET」が表示されるまで押し続ける。
ラジオ局のプリセット設定や時計、タイマーなどの設定が、お買い上げ時の状態に戻ります。
リセットを行っても正常に動作しない場合は、ソニーの相談窓口にご相談ください。

ご注意

本機を廃棄したり、他人に譲渡したりするときは、セキュリティ保護のため、必ず本機のリセットを行ってください。

メッセージ一覧

本機の使用中に、次のようなメッセージが表示、または点滅することがあります。

CAN'T PLAY

CD-ROMやDVDディスクなど、再生できないディスクをセットした。

CHECKING

曲削除ボタンを押した。
ウォークマン® / “ポケットビット”内のファイルを読み込み、ファイルを削除するモードへ移行中です。

COMPLETE

- FM/AM局のプリセット登録が正常に完了した。
- ウォークマン® / “ポケットビット”の曲、フォルダの削除が完了した。

DATA ERROR

- ウォークマン® / “ポケットビット”内の曲を削除するとき、削除対象の曲を再生しようとしたら再生できないファイルを選んだ。
- 再生できないファイルを再生しようとした。

DEVICE FULL

ウォークマン® / “ポケットビット”の空き容量がない。

ERASE ERROR

ウォークマン® / “ポケットビット”の曲やフォルダ(アルバム)の削除に失敗した。

ERROR

ウォークマン® / “ポケットビット”を本機からはずして、再び接続し直してください。

FATAL ERROR

曲の録音中や削除中にウォークマン® / “ポケットビット”を取りはずした。

FOLDER FULL

録音可能なフォルダ数が上限に達している。

FULL

プログラム登録中に26曲目を登録しようとした。

LOCKED

ディスクスロットがロックされ、ディスクが取り出せない。ソニーの相談窓口にご相談ください。

NEW TRACK

ラジオまたは外部入力からの音声を録音中に新しいトラックが作られた。

NO DEVICE

- ウォークマン® / “ポケットビット”が接続されていない状態で、録音ボタンを押した。
- ウォークマン® / “ポケットビット”が接続されていないときに、曲削除ボタンを押した。
- USB機器が接続されていない。または接続したUSB機器を本機から取りはずした。

NO DISC

ディスクが入っていない、または本機では再生できないディスクをセットした。

NO MEMORY

USB機器にメモリーカードが挿入されていない。または、メモリーカードを認識していない。

NO STEP

プログラムが登録されていない。

NO SUPPORT

お使いのウォークマン® / “ポケットビット”が、本機での録音、曲やフォルダの削除に対応していない。

NO TRACK

- ウォークマン® / “ポケットビット”に削除可能な曲がない。
- ディスクやUSB機器に本機で再生できるファイルが入っていない。

NOT IN USE

使用できないボタンを押した。

OVER CURRENT

USB機器を取りはずしたあと本機の電源を切り、再び電源を入れてください。

PUSH STOP

ディスクやUSB機器の再生中に再生モードを変えようとした。

READING

ディスクやUSB機器の情報を読み込んでいる。このとき、いくつかのボタンは操作できなくなります。

TIME NG

再生タイマーや録音タイマーの設定で、開始時刻と終了時刻を同じに設定した。

TRACK FULL

録音可能なファイル数が上限に達している。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や放送規格の異なる海外ではお使いになれません。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、またはソニーの相談窓口(裏表紙)にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではパーソナルオーディオシステムの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後8年間保有しています。ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

主な仕様

アンプ部

実用最大出力(JEITATM)

L : 20 W (8 Ω 、1 kHz)

R : 20 W (8 Ω 、1 kHz)

入力／出力端子

AUDIO IN (外部入力)端子

ステレオミニジャック700 mV
(47 k Ω)

USB接続端子

USBポート：タイプA、DC 5 V 1.5 A

CD-DA/MP3ディスク

プレーヤー部

形式

コンパクトディスクデジタルオーディオシステム

レーザーの仕様

放射時間：連続

レーザー出力*：44.6 μ W 未満

* この出力値は、7 mmの開口部にて光学ピックアップアンプブロックの対物レンズ面より200 mmの距離で測定したものです。

周波数特性

20 Hz ~ 20 kHz

SN比

90 dB以上

ダイナミックレンジ

90 dB以上

チューナー部

回路方式

FM/AMチューナー、スーパーヘテロダイン方式

受信周波数

FM : 76.0 MHz ~ 95.0 MHz
(100 kHzステップ)

AM : 531 kHz ~ 1,602 kHz
(9 kHzステップ)

アンテナ端子

FMアンテナ、AMループアンテナ一体型

スピーカー部

形式

フルレンジスピーカー
パッシブラジエーター

定格インピーダンス

8 Ω

BLUETOOTH部

通信方式

BLUETOOTH標準規格Ver.3.0

出力

BLUETOOTH標準規格Power Class 2

最大通信距離

見通し距離約10 m²⁾

使用周波数帯域

2.4 GHz 帯 (2.4000 GHz ~ 2.4835 GHz)

変調方式

FHSS

対応BLUETOOTHプロファイル³⁾

A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)

AVRCP (Audio Video Remote Control Profile)

対応コンテンツ保護

SCMS-T方式

対応コーデック

SBC (Sub Band Codec)、AAC、aptX

伝送帯域(A2DP)

20 Hz ~ 20,000 Hz (44.1 kHzサンプリング時)

その他

電源

AC 100 V、50 Hz/60 Hz

消費電力

22 W (通常動作時(JEITA¹⁾))

最大外形寸法(幅×高さ×奥行き、最大突起部含む)

約 385 mm × 178 mm × 81 mm

質量

約 2.7 kg

¹⁾ JEITA (電子情報技術産業協会)規格による測定値です。

²⁾ 通信距離は目安です。周囲環境により通信距離が変わる場合があります。

³⁾ BLUETOOTH プロファイルとは、BLUETOOTH 機器の特性ごとに機能を標準化したものです。

付属品

リモコン(RM-AMU196)(1) / リモコン用リチウム電池(CR2025、リモコンに装着済み、お試し用)(1) / 電源コード(1) / FM・AMアンテナ(1) / 取扱説明書(本書)(1) / 保証書(1) / ユーザー登録カード(1)

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

待機時消費電力：0.5 W (BLUETOOTHスタンバイモード「OFF」時)
待機時消費電力：3 W (BLUETOOTHスタンバイモード「ON」時)

型名：CMT-X5CD

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。

<https://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口

フリーダイヤル…………… **0120-333-020**
携帯電話・PHS・一部のIP電話… **050-3754-9577**

修理相談窓口

フリーダイヤル…………… **0120-222-330**
携帯電話・PHS・一部のIP電話… **050-3754-9599**

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX(共通)0120-333-389

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に

➡ **「306」+「#」**

を押してください。
直接、担当窓口へ
おつながります。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Made for

 **iPhone | iPod**



App Store
からダウンロード



 **Bluetooth®**



Qualcomm®
aptX™



* 4 5 2 8 3 0 2 0 7 * (1)